

平成 28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	「ため池守り隊」市民活動支援事業		
部 局 名	創造都市推進局	課(室)名	土地改良課
電話番号	087-839-2433		

【事業全体概要】まちづくりの目標：人と環境にやさしい安全で住みよいまち

総合計画	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		主体	その他
	施策	環境保全活動の推進		期間	平成 24年度～平成 27年度
	基本事業	自然環境の保全		総事業費	35,985
重点取組項目	重点取組課題 3		特定財源	国	
関連根拠法令等	「ため池守り隊」市民活動支援事業補助金交付要綱			県	
事業区分	自治事務	種別	事中・事後	市債	
事業種類	単独			他	
				一般	35,985

事業の概要
用途地域内に点在するため池は、農業用水の水源だけでなく、ため池が創り出す水辺空間が地域住民の憩いの場にもなっているが、近年、農地の減少や農家の高齢化等から、適正な管理が困難になっている。本市のため池の自然環境を守り育てるために、ため池管理者のみならず、地域住民も参加した草刈や清掃活動等のため池の保全活動を支援する。

【事業の目的と指標】

対象	ため池の保全活動を行う市民活動団体	対象指標名	市民活動団体
	市民活動団体に事業費の一部を助成する	活動指標名	補助交付団体数
意図	ため池管理者だけでなく、地域住民等も参加した保全活動に支援することにより、ため池の自然環境を守る	成果指標名	事業実施箇所数
	ため池の自然および景観が守り、育まれる	効率指標名	100万円当たりの補助金交付団体数

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	目標値	目標年度
対象指標	団体数	8	9	10	10	平成 28年度
活動指標	団体	8	9	10		平成 28年度
成果指標	箇所	14	15	16		平成 28年度
効率指標	団体 /	1.61	1.66	1.72		平成 28年度
トータルコスト	[千円]	4,984	5,652	13,648		
(事業費)	[千円]	2,088	2,700	2,900		
(職員人件費)	[千円]	2,896	2,952	10,748		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
用途地域内に点在するため池は、農業用水の水源だけでなく、ため池が創り出す水辺空間が地域住民の憩いの場になっているが、近年、農地の減少や農家の高齢化等により、適正な管理が困難になっている。	地域住民の、ため池に対する自然環境保全への関心が高まってきている。	ため池管理者だけでは、農地の減少に伴う受益者の減少や高齢化等により、適正に管理できない、ため池が増加するものと考えられる。	ため池を中心とする自然環境・災害予防及び良好な景観形成の向上により、ため池は地域の財産であるという市民意識の高揚に役立つ。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か
B 現段階では市による実施が妥当である ため池管理者だけでなく、地域住民も含めた市民活動団体が行う、ため池の保全活動に対して助成することは、自主的な活動を促進するため適切である。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか
A 貢献度が大きい 環境と共生する持続可能な循環型社会の形成（政策）、環境保全活動の推進（施策）等に基礎的、根幹的部分で大きく貢献する。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか
B 必要性は中程度 ため池の自然環境を保全していくためには、拡充が必要である。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか
A 影響は大きい 適正な維持管理ができず、荒廃ため池が増加する。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか）
A 事業のプランづくりの段階からNPO、市民団体が参加している ため池管理者のみならず、自治会等地域住民の協力を得て実施している。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか
B 向上余地が考えられる（中小程度） 事業取組についての地元活動組織が結成されれば、向上の余地はある。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか）
A 実施済み / 実施する必要がなかった 要綱の運用について、見直しを図り、実施2年目以降の箇所については、補助金上限額を毎年5万円づつ漸減（最終上限額15万円）、し団体の自立を促すこととした。
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか
C 概ね達成できた 平成23年度からモデル事業（3か所）を開始した。27年度は（10団体）16ため池で実施した。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか
C 概ね達成できた 16か所のため池において事業が実施されている。
10. コスト縮減ができたか
C 少し縮減できた 実施2年目以降の箇所については、補助金上限額を毎年5万円づつ漸減（最終上限額15万円）することとした。

【一次評価】

評価区分	継続																				
ため池の自然環境を守るためにも、ため池の管理者だけでなく、地域住民も含めた市民活動事業が行う保全活動に対して助成することは適切である。平成27年度からは継続事業として実施しており、28年度からの補助金上限額の漸減は地域の自立を促すため有効である。																					
改革案		期待効果																			
内容	阻害要因	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	成果	コスト			削減	維持	増加	向上				維持				低下			
		成果		コスト																	
削減	維持		増加																		
向上																					
維持																					
低下																					

【二次評価】

評価区分	継続
市街地内のため池やその周辺部においては、関係農業者だけでは、適切な管理が困難になってきているものの、重要な地域資源であるため池の自然環境を保全のほか、防災上も重要な役割を果たしており、農業者と共同して市民活動団体が行う活動に対して、活動費の一部を助成することは、協働都市づくりの観点からも必要である。	